

京都府図書館等連絡協議会実務研修会（中部会場）概要

テーマ：AI と図書館

演 題：「地域資料×AI で何ができるか試してみよう！
～今すぐできる図書館での AI 活用法を考える」

講 師：株式会社カーリル 代表取締役 吉本 龍司 氏

会 場：京都府立図書館及び Zoom によるオンライン開催
（京都府立図書館 3F マルチメディアインテグレーション室）

日 時：令和 6（2024）年 12 月 11 日（水）13 時 30 分～15 時 30 分

参加者数：19 名（当日会場参加者）

概 要：

「チャット GPT」の発表以降、「AI」の存在がとても身近になりました。AI が進化し、将来は図書館業務においても、大きな影響をもたらすのではないかとされています。その活用方法への関心から今回の研修を企画しました。

講師は、(株)カーリル代表取締役でエンジニアでもある吉本龍司氏です。吉本氏は図書検索サイトでおなじみの「カーリル」を運営し、図書館運営システムや電子書籍の技術開発にも携わっておられます。

講義の前半では、「生成 AI と公共図書館」と題して、検索の分野を中心に、書誌データ等の学習をした AI が蔵書検索において関連のキーワードを手助けしたり、書影をベクトル化（入力データを数値の配列であるベクトルに変換するプロセス）することにより、「猫が沢山描かれている表紙」の様な表紙の“印象”からも検索することが可能になるなど、従来の図書検索から更に進んだ検索ができる事などの活用例の紹介がありました。

しかし、AI の学習が発展途上の現在では、内容に不正確な場合もあること、AI は主に民間主導で進められているので、得られる情報に限りがある場合があり、より的確な情報を提供するために AI の情報に加え図書館の情報を繋ぐなど、図書館が今後考えるべき課題なのかもしれません。

後半のワークショップでは、インターネット上のサービスを使って、地域資料と AI をどのように組み合わせるかを実際に操作しながら体験しました。講師の地元でかつて発行されていた地域資料を用いて、①資料をスキャン（膨大なページを瞬時にスキャン）②OCR 処理（文字をコンピュータが利用できるデータに変換すること）③全文検索が可能に④「地域にあるお地蔵さんについて教えて」と質問すると生成 AI により得られたデータから回答され、資料の内容についての検索や編集が可能であることを体験しました。

これを踏まえて、今後の公共図書館への期待として、既存の資料を今後に残す事に加え、文字資料として残りにくいインターネットや SNS で発信された地域情報や持続不可能になる可能性も持つ地域や会社、団体・個人の保存先が無いデータなど、消えてしまう情報の収集と提供など地域資料における AI の活用は大きな可能性を秘めているのではないかと言うお話でした。参加者からは AI の活用により様々な機関の発行物やチラシなどを資料化したり、紀要類の検索などに活用できるのではないかなどの意見が出ました。

図書館業務に広く関係がある分野なので、その動きを注視していきたいものです。